

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *

令和8年第35週 (8月24日～8月30日)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎にご注意ください

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎は、A群溶血性レンサ球菌による感染症で、子どもに多くみられます。主な症状は、突然の発熱、のどの痛み、扁桃の腫れや発赤などです。飛まつや接触により感染するため、手洗いや咳エチケットが大切です。発熱やのどの痛みがある場合は、早めに医療機関を受診しましょう。抗菌薬が処方された場合は、症状が改善しても自己判断で中止せず、指示された期間きちんと最後まで服用することが重要です。

突発性発疹について

突発性発疹は、主に生後6か月～1歳ごろの乳幼児に多い感染症です。突然38℃以上の高熱が3～4日続き、熱が下がった後に、体幹を中心に赤い発しんが現れるのが特徴です。発熱中は機嫌が悪くなることがあります。基本的には自然に回復しますが、高熱に伴う熱性けいれんに注意が必要です。けいれんが続く、意識がおかしい、水分がとれないなどの場合は早めに医療機関を受診しましょう。

体調管理に気をつけ、感染症対策に取り組みましょう

夏季休暇が終わり、新学期が始まるこの時期は、生活リズムの変化に伴う体調不良や、集団生活の再開により、学校や地域社会で色々な感染症が流行しやすくなります。

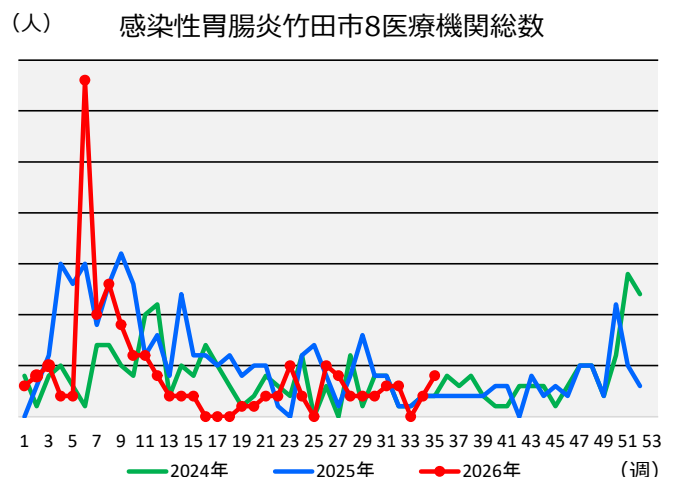
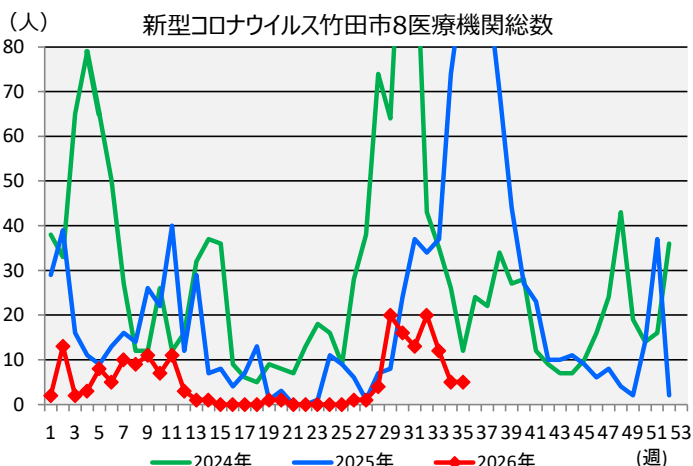
自分や家族、周囲の人達の健康を守るため、日頃から手洗いや換気などの基本的な感染防止対策に取り組みましょう。あわせて、バランスのとれた食事や十分な睡眠を心がけて、体調管理を行いましょう。



(第35週)

(調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結核熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻疹(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
	A型	B型	不明																
0歳																			
1～3歳												2							
4～6歳							1												
7～9歳																			
10～14歳																			
15～19歳																			
20歳以上				5				4											
今週				5			1	4				2							
70歳以上(再掲)				2															
先週				5				2				1							



感染症危機下において実施が推奨される基本的な感染対策

①換気



換気によって、空気中のウイルス等を外に追い出すことができます。

必要な換気量が確保されているかを確認する方法としては、二酸化炭素濃度測定器(CO2センサー)の活用等があります。

対角にある窓を2か所以上開ける



窓が1か所しかない場合

換気扇を常につける



扉を開ける



空気の通り道を設けることが重要です

②マスク着用等の咳エチケット



咳エチケットによって、ウイルス等を含んでいる飛沫が広がるのを防ぐことができます。

ある程度、飛沫感染を防ぐことができる不織布(ふしょくふ)製マスクがおすすめです。

3つの咳エチケット

電車やバス、学校など人が集まるところでやろう



正しいマスクの着用



③手洗い



手洗いによって、自分の手に付着したウイルスを減らすことができます。

流水で手を洗えないとき、手指消毒(消毒用エタノール等による)も有効です。



正しい手の洗い方

- 手洗いの前に
- ✓ 爪は短く切っておきましょう
 - ✓ 時計や指輪は外しておきましょう



指の間や手首も忘れずに。

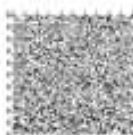
④人混み回避



感染症危機下でも、人混みを避けることによって、感染機会を減らすことができます。

熱や咳等、体調不良を感じている人は、人が多く集まる場所に行かないようにしましょう。

特に **高齢者** **基礎疾患のある方** **妊婦** **体調不良の方** は、人混みや繁華街への外出を控えましょう。



QRコード

感染症の特性や状況の変化に応じた最新の情報や対策については、厚生労働省などの公式ウェブサイトやSNSにて随時更新しますので、ご確認ください。



内閣感染症危機管理統括庁



厚生労働省

マスクや手指消毒薬など
ご家庭や職場でも
備蓄しておきましょう!